



菜々子ちゃん (平成18年12月30日生)
両親＝宮内初太良・美智代さん〔三川〕
「菜々子もトラクターに乗って、
レッツゴー！」



爽太ちゃん・健太ちゃん

(平成19年5月5日生 双子)
両親＝椎名正和・尚子さん〔井戸野〕
「爽太・健太の金太郎 ママの手作り！」
とっても似合うでしょ」



士恩ちゃん (平成18年10月8日生)
両親＝齋藤匡斗・明子さん〔横根〕
「初めてのディズニールンド♡
お気に入りの帽子もきまってるでしょ！」

すこやかちゃんを募集しています

掲載ご希望の方は、秘書広報課広報広聴班(〒289-2595旭市二の1920・☎62-8070)へ。
対象は、小学校入学前の幼児です。申込用紙は、保健センター、海上保健センター、飯岡保健センター、干潟保健センター、秘書広報課にあります。



紙上展示室 ―旭モノ語り― 第三十一回

馬乗り馬頭観音

路傍の神さま仏さまは数あれど、旭を代表するものといえば、何といっても馬頭観音さまです。それともたの観音さまではありません。馬にまたがるその名も馬乗り馬頭観音です。これは千葉県に特異的に見られる石造物で、全国では局地的に数体が確認されているだけ。そして県内においても、東総と内房とに分布が集中しています。

もともと馬頭観音は馬が神格化したもので、頭上に馬をいただいた憤怒の形相をした観音さま。しかし東総地域には、馬に乗っていない普通の馬頭観音はほとんどなく、馬頭観音といえば、この馬乗りタイプが一般的です。なぜ全国でここだけなのかは謎につつまれています。

旭市内に残る馬乗り馬頭観音は、現在四十一体。建立は十八世紀後半から十九世紀初頭にかけてで、寛政年間に流行のピークを迎えています。今回ご紹介するのは、中でも特に希少な一体、珍しいのはその形です。市内の九割は、舟形の後背にレリーフ状にその像が刻まれて造られています。しかし、この横根にある



馬頭観音は丸彫りタイプ、この形状は市内でただ一体だけの希少躯体なのです。高さは七十八cm、彫りは浅いものの、衣装のヒタや、馬に独特の造形が見られ、ふつくとした丸みを帯びた味わいのある躯体となっています。

かつて馬と人との付き合いは深く、江戸時代には家畜の守護神、旅の道中の安全を守る菩薩として、馬が行き倒れたり、亡くなった路傍などに馬頭観音が建てられたと考えられています。建立年代は残念ながら不明ですが、横根の台地で、馬がどれほどの助けをしたかが偲ばれます。

参考文献「東総の石仏」(服部重蔵)
〔大原幽学記念館 猪野映里子〕

暮らしのカレンダー

- 3日(日)** 第19回旭市飯岡しおさいマラソン大会
(8:30～ いいおかユートピアセンター)
水神社永代大御神楽
節分会 (市内各寺・神社で開催)
- 11日(月)** 建国記念の日
- 18日(月)** 市県民税、所得税の申告受け付け開始
(～3月17日(月))

編集後記

旭に初雪が降った翌朝、撮影のため幽学記念館へ。ここには、今は珍しい茅葺屋根の古民家があり、雪化粧がピッタリ。途中、陽も差してきて、とてもきれいでした。市内にはちよつとした癒しスポットがあります。萬歳の田んぼには今年も百羽を超えるコハクチヨウがひなたぼっこ。刑部岬からの夕景に浮かぶ富士山や幽学記念館に咲き誇るツバキが見られるのもこれからです。家族との買物の帰り、ちよつと遠回りするだけで思わぬ感動に出会えるかもしれません。
(ま)